

○日時 令和7年8月18日(月)
13:50~14:30
○場所 北九州市本庁舎4階 記者会見室

東京科学大学・北九州産業学術推進機構との イノベーション創出に関する連携協定締結式

次 第

1. 出席者紹介
2. 北九州市 挨拶・概要の説明
(市長 武内 和久)
3. 国立大学法人 東京科学大学 挨拶・取組の説明
(理事長 おおたけ なおと 大竹 尚登)
4. 公益財団法人 北九州産業学術推進機構 挨拶・取組の説明
(理事長 まつなが もりお 松永 守央)
5. 協定書署名
6. 質疑応答
7. 写真撮影

配布資料

- ・次第
- ・配席表
- ・協定内容説明資料(3者説明資料)
- ・令和7年8月8日付 プレスリリース資料

【問合わせ】

産業経済局 未来産業推進部 未来産業推進課
課長：正野、係長：岩崎 電話：093-582-2905

イノベーション創出に関する連携協定について

国立大学法人

東京科学大学



北九州市



(公財)北九州産業学術推進機構

FAIS



令和7年8月18日

協定締結の背景



G-CITY 戦略

大学の「知」と先端産業が融合し、
新たなイノベーションが連続して
生まれる街

GREEN	グリーントランスフォーメーション
GLOBAL	世界中
GRID	つながる
GAKKEN	学研



開設以来23年間
「創成期」「成長期」



「発展期」

G-CITY 戦略 5本の柱(施策の方向性)



3

東京科学大学と連携する意義



- 我が国の**理系最高峰の大学**であり、**卓越した研究力**を有する
※2024.10に東京工業大学と東京医科歯科大学が統合して設立
- 国内外の企業や研究機関等との**豊富なネットワーク**を有する
- 研究シーズの実用化など、イノベーションの創出に向け、**卓越した産学連携のノウハウや共創の実績**を有する
- 東京科学大学、九州工業大学、室蘭工業大学の三工大連携（2023.10協定締結）を通じて、**イノベーション創出に関する意見交換を継続実施**
※2025.7.23東京科学大学設立記念シンポジウムに片山副市長が登壇

主な連携協定項目



➤ イノベーション創出を担う人材の育成

- 東京科学大学 産学共創機構長のFAISのCINO (Chief Innovation Officer) 就任
- 東京科学大学へのFAIS職員の出向等による連携の強化

➤ イノベーションの創出や研究成果の実用化

- 北九州地域の大学や企業等との連携による半導体はじめ、イノベーション創出に向けた共同研究等の実施

➤ 連携拠点の形成

- 学術研究都市に東京科学大学の活動拠点の開設の検討(北九州ラボ)

連携による効果



➤ 北九州市と北九州産業学術推進機構(FAIS)

- 東京科学大学の国内最高峰の研究力、ネットワーク、産学連携のノウハウの活用
- G-CITY戦略の推進

➤ 東京科学大学

- 北九州市が抱える課題解決や新産業・人材創出を通じた地方創生への貢献
- 北九州エコタウン、洋上風力等、実証フィールドとしての利活用



(公財)北九州産業学術推進機構【FAIS】



- 2001年3月に設立。
- 北九州学術研究都市の管理運営とともに、「産学官の連携による研究開発」の支援（コーディネート）のミッション（役割）。
- 民間企業のOBや出向などによるコーディネーター：22名
⇒官民協働により、研究開発のコーディネートを推進

事務局(総務部)	北九州学術研究都市の管理運営など
産学連携センター	産学共同研究開発の支援、研究成果の事業化支援など
自動車産業支援センター	自動車産業分野での研究開発支援、人材育成など
半導体産業支援センター	半導体産業分野での研究開発支援、人材育成など
ロボット・DX推進センター	ロボット・DX導入による生産性向上の支援など
中小企業支援センター	地元の中小企業への総合的支援など

1

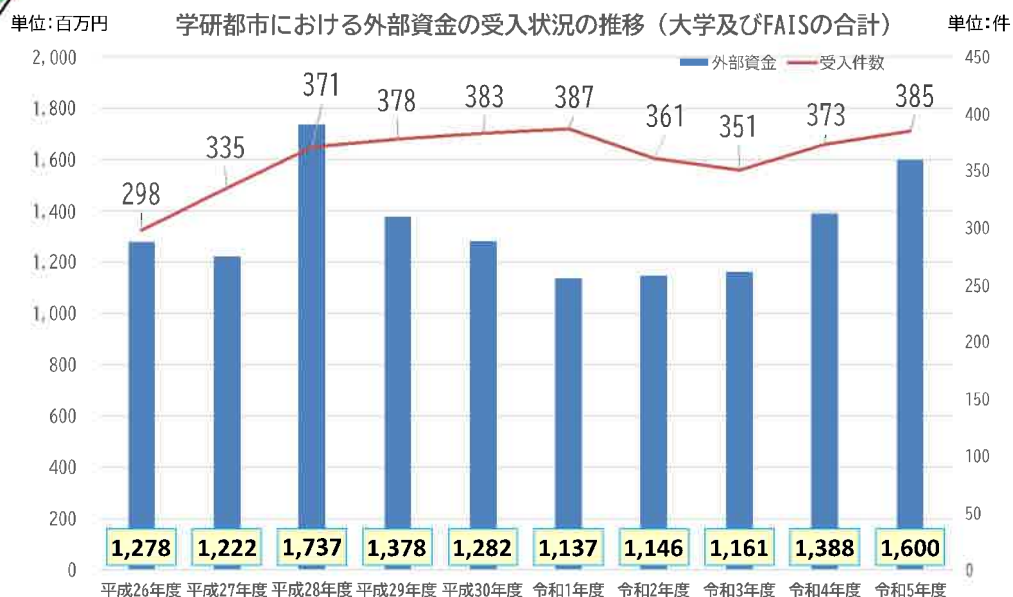
国等の資金を活用したこれまでの研究開発プロジェクト



これまでに実施した主な研究開発プロジェクト		
		累計約358億円 (H13～)
文部科学省	知的クラスター創成事業(第1期・北九州学術研究都市地域) 【知的クラスター創成事業】	H14～18年度 約25億円
	地域イノベーションクラスタープログラム(福岡・北九州・飯塚地域) 【地域イノベーションクラスタープログラム】	H19～23年度 約80億円
	長寿命で優れた耐摩耗性・耐肌荒れ性等を有するΦ1000mm以上の圧延用大径ロールの開発 【戦略的基盤技術高度化支援事業】	H29～R1年度 約1億円
経済産業省	5G対応高周波用材料への分子接合とメッキ技術を融合した高周波対応メッキ技術の開発 【戦略的基盤技術高度化支援事業】	R1～2年度 約1億円
	次世代太陽光発電向け円筒型太陽電池システムの研究開発 【戦略的基盤技術高度化支援事業】	R1～3年度 約1.2億円
	三次元技術を用いた地域社会への貢献を目的とした高度測量技術に関する研究開発 【戦略的基盤技術高度化支援事業】	R1～3年度 約1.3億円
	港湾コンテナ基地における蔵置作業効率を最大化する蔵置アルゴリズムのシステム開発 【成長型中小企業等研究開発支援事業】	R4～5年度 約1.1億円
	ハイブリッド自動車向けSiC耐熱モジュール実装技術の研究開発 【戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)】	26～30年度 約8.4億円
	竹・プラスチックコンポジット材を活用した事業の推進 【ものづくり中小企業・小規模事業者連携支援事業】	26～28年度 約0.2億円
内閣府	スマート社会創造に向けたソーシャルイノベーション研究開発・実証拠点 【世界に誇る地域発研究開発・実証拠点(リサーチコンプレックス)推進プログラム】	27～28年度 約3.4億円

2

研究開発推進のための産学連携機能の強化



G-CITY戦略 の「目指す姿」

学術研究都市の
大学が獲得した
外部資金
(国・民間資金の
合計)

**5年後に
50億円**

⇒外部資金の更なる獲得にFAISも寄与するため、産学連携機能を強化する必要あり

3

産学連携機能の強化にあたってFAISが抱える課題(例)

- 研究シーズと企業ニーズの新たなマッチング手法の導入
- 国のプロジェクトのみならず、大手民間企業との共同研究開発プロジェクトの資金獲得に向けた、新たなネットワーク構築
- 専門知識のみならず、営業コンサルティング能力等を持ったコーディネーター人材の育成・確保



今回の連携協定締結のもと、東京科学大学の

- 卓越した研究力と、それを社会実装に繋げる先進的な産学連携手法
- 首都圏の大手企業や国内外の研究機関とのネットワーク

などを共有いただき、課題解決につなげてまいりたい。

4



課題解決に向けた具体的な連携策(案)



- 東京科学大学産学共創機構長のFAIS「CINO (Chief Innovation Officer)」就任による、産学連携や専門人材育成のノウハウの共有・展開
- 互いの産学官連携人材の定期的な交流・情報交換による、エリアを超えた研究プロジェクト創出の土台づくり
- 互いの持つ企業や研究機関などとのネットワークを活用したマッチング機会の創出
- 東京科学大学へのFAIS職員の出向、東京科学大学分室の北九州学術研究都市への設置などを通じた、新たな連携拠点の形成
- 社会課題解決に向けた共同研究プロジェクトの立ち上げ及び外部資金の獲得
- 双方における産学連携の取組や研究内容等の情報発信

東京科学大学の産学官共創 ーイノベーション創出に向けてー

2025年 8月18日

東京科学大学
理事長 大竹尚登



東京科学大学について



2024年10月1日に東京工業大学と東京医科歯科大学が統合して誕生

Mission (Science Tokyoの存在意義)

「科学の進歩」と「人々の幸せ」とを探究し、社会とともに新たな価値を創造する

Core values (Science Tokyoの信念・行動指針)

常識や型にとらわれず、あらゆる知と技術を探究し、自在に融合させる
一人一人の個性や想いを尊重し、豊かな創造の文化を育む
自らの在り方をつねに問い続け、果敢に変革し続ける



理事長 大竹 尚登 Naoto Ohtake

1992年 東京工業大学 博士（工学）取得。
2010年 同大学大学院理工学研究科機械物理学専攻教授に就任。
2022年 同大学科学技術創成研究院研究院長に就任。
2024年10月より現職。専門は機械材料学、機能性薄膜。



学長 田中 雄二郎 Yujiro Tanaka

1985年 東京医科歯科大学 大学院医学研究科博士課程修了。
博士（医学）取得。
2001年 同大学 医学部附属病院総合診療部教授に就任。
2020年 同大学長に就任。
2024年10月より現職。専門は消化器内科学、医学教育学。

Science Tokyo Vision 2025

 Institute of
SCIENCE TOKYO

善き生活、社会、地球を
つくりあげる大学

徹底した対話を通じて、
活力と善意に満ち溢れた
開かれた大学

大学自身・教職員・学生が
社会とともに
善き未来を描く

新学術・新産業の創成や
感染症・カーボンニュートラルなど
の社会課題への対応に挑戦していく

Core Value 1

常識や型にとらわれず、
あらゆる知と技術を探求し、
自在に融合させる

Core Value 2

一人一人の個性や想いを尊重
し、豊かな創造の文化を育む

Core Value 3

自らの在り方をつねに問い続け、
果敢に変革し続ける

University 4.0の実現

～Science Tokyo orchestrates the ecosystem～

Science Tokyoから日本を元気に

新型コロナ
重症入院患者
都内1位
2023年

THE日本大学
ランキング
(教育リソース)
国内1位
2025年4月発表

QS分野別
ランキング
(歯科)
世界4位
2025年3月発表

科研費採択者に
占める女性割合
国内2位
2023年 採択件数
上位50機関

次世代スパコン
「TSUBAME4.0」
国内2位
2024年6月発表

THE日本大学
ランキング
国内2位
2025年4月発表

日本初の
大規模な女子枠
入試導入
149名
2024年

科研費
受入額
(研究者一人当たり)
国内1位
2023年

民間からの
共同研究費受入額
(研究者一人当たり)
国内1位
大学ファクト
ブック2024

トップ10%論文数
(本教員一人当たり)
国内2位
2018～2022年
国立大学



山崎さだ 1934年

(*)“善き未来 (人々がかくありたい
と願う未来)”というビジョン実現
のために集結する異分野融合の研
究・教育体制 (VI)



東京医科歯科大学 1928年 創立

- 複雑な社会課題や未知の危機に対し、開かれた大学として
国内外の知を集結してその解決を図り、善き未来社会を創造する
- あわせて、科学技術・イノベーション基本計画を始めとする官産学共通の目標を実現する
- Visionary Initiative (※) により全学組織をビジョン駆動型研究・教育システムに転換
- 21世紀社会は、地球環境問題やパンデミック等、地球規模の危機に直面している
- 日本は過去30年の停滞を経験し、官産学が一体となった変革が求められている

Esprit 新産業と
新医療の
創出 先端研究
を通じた
教育 危機に
立ち向かう
姿勢 精髓

2024年 両大学を統合し、10月1日に「国立大学法人東京科学大学」を設立
総合研究院、未来社会創造研究院、新産業創成研究院の3研究院を立ち上げる
世界で初めて脳電図を記録できる手術支援ロボット「Sarae」の臨床応用に成功
大塚直樹がオートファジーの仕組みを解明しノーベル生理学・医学賞を受賞
2003年 柳野光雄が、薄層トランジスタ「IGZO」を発明し世界標準
2000年 竹川美津が導電性プラスチックを発明しノーベル化学賞を受賞
1970年代 伊賀による面筋電図の発明→世界標準
1970年代 車林による車輪用空気抵抗センサー→世界標準
1960年代 赤松による世界初の光ファイバ通信実験→世界標準
1960年代 船本による重症肝炎患者の手術成功
1930年代 尾藤、武井によるフォトリソの発明→世界標準→TDK株式会社
1930年代 古賀による潜水艇の設計→世界標準→三菱重工業株式会社
1920年代 高田によるブラウン管テレビの発明→世界標準

重症コロナ患者受入
都内第1位(2022年度)



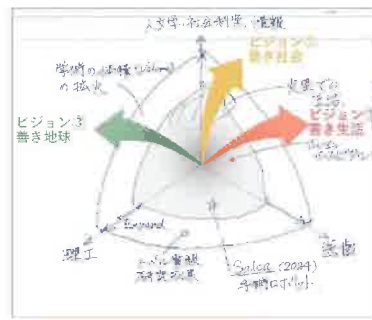
福島第一原発の廃炉への技術貢献
東京電力社長
“Science Tokyoの歴史的貢献は大きい”



東京工業大学 1881年 創立

“善き未来”を実現するVI

- 既存の学際的研究組織をアップグレードし、“善き未来”をビジョンとし、その実現のための
ディシプリン横断型の研究教育組織 Visionary
Initiative (VI)を2025年4月に組成
(現在6つ、2025年度中に9つに拡大)
- 最終期には、VIごとに教員約200名と研究
スタッフ約1,000名(準研究員として博士学生
含む)で構成。国内外大学や企業からの研究者
も参加
- 卓越研究教員(主に外国人研究者、全学で80名
以上)を含む外国人研究者比率30%以上、女性
研究者比率40%以上となるように拡充
- 研究分野と研究ステージ(基礎、応用、開発)
両方の多様性からなる融合研究を推進
- 学際的教育を行う複合系コース・卓越大学院の
システムを全学化し、VIが大学院教育コースを
提供。研究と大学院教育の一体化を実現
- ビジョンに合わせたアジャイルな組織としての
VIの機動性のため、現在の学院及び研究科を
一研究科組織(仮称:統合科学研究科)に統合

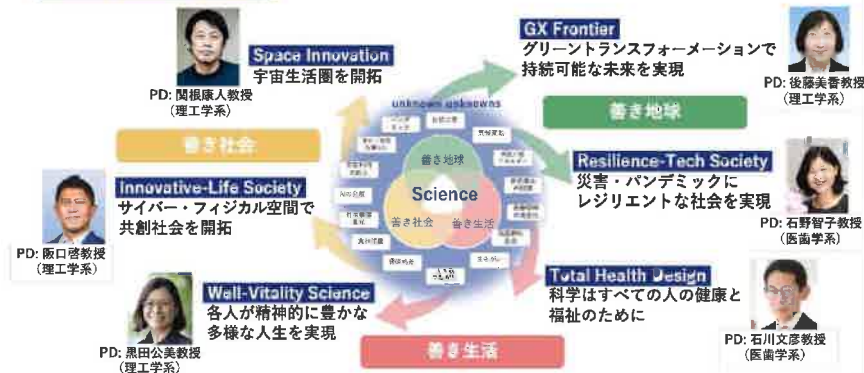


VI構想の検討開始初日に描いたコンセプト図

医学、理工学、人文・社会科学という、
科学の3軸から形成される空間領域の融合
研究をVIで積極展開
基礎から応用までの研究力拡充(3軸の
伸長・体積の増加)と、社会課題解決を
介したビジョンの実現を両立

2025年時点の6つのVI

* 本学の全研究者(常勤)は、2028年度を目途に9つのVIのいずれかに参画



Institute of
SCIENCE
TOKYO

PIの構成

- 分野横断及び基礎から応用の研究ステージによる多様性
- 共鳴する国内外の研究者、企業が参画して共創

GX Frontier



Institute of
SCIENCE
TOKYO

- ・ 本学の研究成果や研究リソース等を通じて、イノベーション創出に資する研究・連携拠点の形成を進め、地域課題の解決等に貢献する
- ・ 北九州、首都圏それぞれの地域の特長やネットワークを活用し、グローバルイノベーションエコシステムの形成・構築を促進する
- ・ イノベーション創出を担う人材育成

- ・イノベーションの創出や研究成果の実用化を目指して、三者の定例協議、ニーズシーズマッチング、外部資金獲得の試み
- ・北九州、首都圏双方における研究・連携拠点形成のため、実証フィールドの検討、人材交流、分室等の設置、産学連携イベントの企画・参加
- ・イノベーション創出を担う人材育成、採用支援

北九州市、FAISに期待すること

- ・北九州市にある製造業を中心とした企業群、地場産業等との連携やネットワーク機会の提供・支援
- ・地域に特有な社会課題、その解決に向けた研究開発や学術研究の推進・支援
- ・新たな産業創成に繋がる、半導体、宇宙、量子、環境等の領域の共同検討
- ・北九州エコタウン、リサイクル施設や洋上風力等、実証フィールドとしての利活用支援
- ・アカデミア、研究機関、企業、スタートアップ、自治体等、本学の有するネットワークの利用、それらを活かした連携活動の推進
- ・新たなイノベーションを引き起こす共創の場構築のため、本学リソースの有効活用、また、幅広い相談窓口として声掛けいただきたい

ご清聴ありがとうございました



令和7年8月8日
北九州市産業経済局

東京科学大学と北九州市の協働がスタート!!



令和7年2月18日に発表した、『G-CITY戦略』を推し進める大きな一歩として、**理系最高峰の国立大学である東京科学大学（2024年に東京工業大学と東京医科歯科大学が統合して誕生）と連携協定を締結**することとなりました。

今回の連携協定締結により、同大学の「卓越した研究力」、国内外の企業や研究機関等との「豊富なネットワーク」、研究シーズの実用化などイノベーション創出に向けた「卓越した産学連携のノウハウや共創の実績」を活用して、学研研究者とのマッチングやイノベーションを担う人材育成に連携して取り組み、学術研究都市からのイノベーション創出に繋げてまいります。

さらに、東京科学大学の産学連携のノウハウを学術研究都市で展開するため、**東京科学大学の産学連携の要である大嶋産学共創機構長（副学長）にFAISのCINO（Chief Innovation Officer）に就任**頂き、学術研究都市の産学連携機能の強化を図ります。

この連携協定を皮切りに『G-CITY戦略』の実現、大学の「知」と先端産業が融合し、新たなイノベーションが連続して生まれる街を目指して、全力で取り組んでまいります。ぜひ、取材方よろしくお願いします。

記

- 1 日時 **令和7年8月18日（月）13：50～14：30**
- 2 場所 北九州市役所4階 記者会見室
- 3 締結者 国立大学法人東京科学大学 理事長 大竹 尚登
北九州市長 武内 和久
公益財団法人北九州産業学術推進機構 理事長 松永 守央
- 4 次第 (1) 出席者紹介
(2) 武内市長による説明
(3) 国立大学法人東京科学大学 大竹理事長によるご説明
(4) 公益財団法人北九州産業学術推進機構 松永理事長によるご説明
(5) 協定書署名、質疑応答、写真撮影

※ なお、本会見は「こども記者」体験事業の一環で、こども達（約15名）が見学に参りますのでご了承のほどよろしくお願いします。

【問い合わせ先】産業経済局未来産業推進課
電話：093-582-2905
担当：正野（課長）、岩崎（係長）